

特別講演会

ラースロー・クルチャー教授「開発に資する人口減少の挑戦」

2015年12月16日（水）、国立社会保障・人口問題研究所第4・第5会議室で、カンザス州立大学社会学部のラースロー・クルチャー教授により、「開発に資する人口減少の挑戦」という題で特別講演会が行われた。クルチャー教授には、前日の第20回厚生政策セミナー「地域人口と社会保障をめぐる諸課題～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦」にて講演者・パネリストとして御登壇いただいたが、特別講演会では人口減少のメカニズム、国際比較についてより詳しく御講演いただいた。

質疑応答では、アメリカの地域的な人口減少についてのコミュニティーレベルの対応や農業施策との関係、また南北の地域差、家族の価値観などについて議論が進んだ。（林 玲子 記）

「新たな開発目標の時代とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」

国際会議

2015年12月16日（水）、東京プリンスホテルにて、外務省、財務省、厚生労働省、国際協力機構、日本国際交流センターの共催により、国際会議「新たな開発目標の時代とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ：強靱で持続可能な保健システムの構築を目指して」が開催された。開会式では、安倍晋三内閣総理大臣、チャン世界保健機関事務局長、キム世界銀行総裁、ビル・ゲイツ氏らがスピーチを行い、エボラ出血熱という地球規模の健康危機への対策、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの普及についてなどが議論された。

また国際会議翌日の12月17日（木）には、同じ会場で2016年G7サミットに向けたグローバルヘルス・ワーキンググループのラウンドテーブル討議が行われた。UHCを通じた公正・公平な保健システムの推進、人間の安全保障を脅かす重篤な感染症等に対する体制強化、人口高齢化社会における保健システム強化、研究開発の推進の四点が提言案に盛り込まれており、参加した世界各国の専門家よりコメントが寄せられた。（林 玲子 記）

「グローバル・エイジング時代のケア人材国際移動」ワークショップ

2016年1月21日（木）、国立社会保障・人口問題研究所第4・第5会議室で、「グローバル・エイジング時代のケア人材国際移動」ワークショップを開催した。「開催趣旨説明」（筆者）、「福祉・介護人材確保の見通しと課題」（厚生労働省社会援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室長 榊原毅）、「高齢化するアジアにおける厚生労働省の取組」（厚生労働省大臣官房国際課課長 大鶴知之）、「経済連携協定（EPA）に基づく看護師・介護福祉士受入れの現状等」（公益社団法人国際厚生事業団 受入支援部部长 稲垣喜一）、「外国人ケア人材の日本経験とその広がり」（NPO法人AHPネットワークス 二文字屋修）、「ケア従事者の国際移動」（京都大学大学院文学研究科特定准教授 安里和晃）の6つの報告の後、質疑応答を行った。介護人材の技能実習制度の導入に関する今後の見通しや、EPA看護師・介護福祉士の出身国と日本の間の流動性、およびアジア地域全域の介護システム強化の必要性などについて議論された。（林 玲子 記）